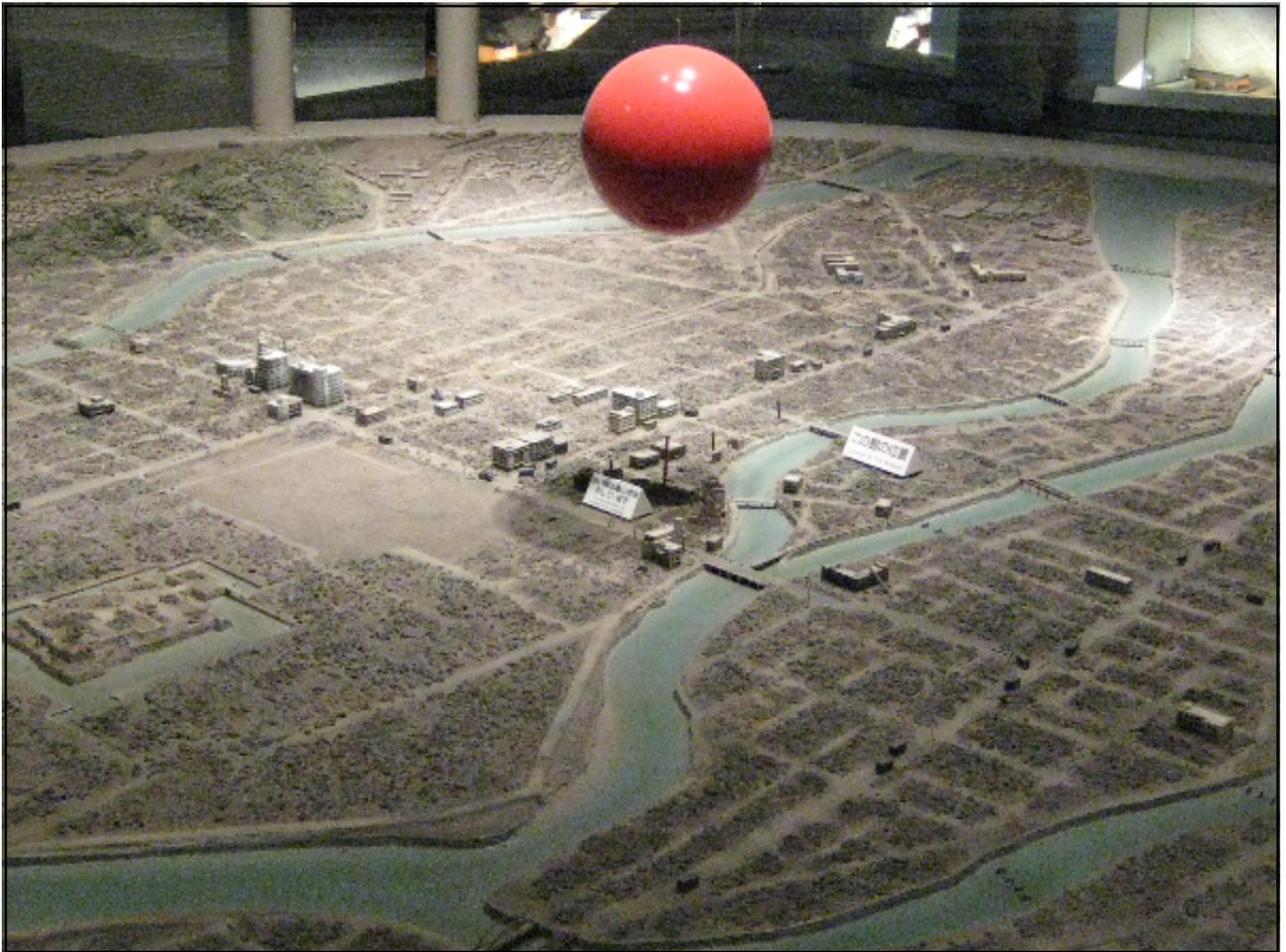


19 広島に投下された原子爆弾
The Atomic Bomb Dropped on Hiroshima











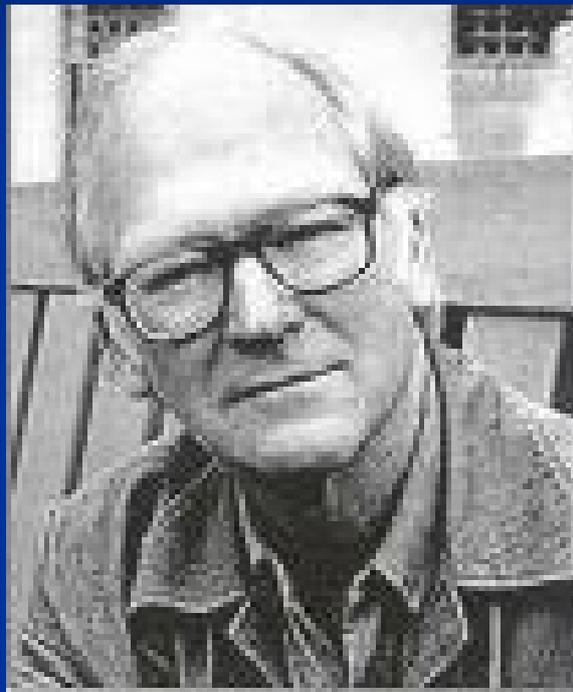




2008年度2学期木曜1時限
「認識するとはどういうことか？」
第9回講義(2008年12月4日)

§ 8 心身問題 その3
デイヴィッドソン(Donald Davidson)の
非法則的一元論

- 参考文献: デイヴィッドソン著『行為と出来事』
服部裕幸、柴田正良訳(勁草書房)第8章



- デイヴィドソンは、次の3つの原理を認める。

＜第一の原理＞

「**因果的相互作用の原理**」＝「少なくともいくつかの心的出来事は物的出来事と因果的に相互作用し合う」(訳263)

例えば、「身体的運動」や「知覚」がそうである

- <第二の原理>
- 「因果性の法則論的(nomological)性格の原理」＝「因果性が存在するところには法則が存在しなければならない」(訳264)

- <第三の原理>
- 「心的なものの非法則性の原理」＝「心的出来事を予測したり説明したりするための根拠となる厳格な決定論的法則は存在しない」
(訳264)

＜第一の原理＞ 「因果的相互作用の原理」

＜第二の原理＞ 「因果性の法則論的
(nomological)性格の原理」

＜第三の原理＞ 「心的なものの非法則性の原理」

- 一見すると、これらの三つの原理を同時に受け入れることは、矛盾するように見える。例えば、第一と第二の原理は矛盾しないように見えるが、それらは第三の原理と矛盾するように見える。
- しかし、デイヴィドソンは、＜この三つの原理を認めても、矛盾しない＞と主張する。

<論文の第一部>

テーゼ「非法則的一元論は、上の三つの原理を両立させる」の説明

(この証明は、論文全体で行なわれる)

<用語の説明>

- 「出来事」=再現不可能な、特定の時刻を割り当てられた個体」(訳266)
- 「心的出来事」=「心的用語によって記述可能である出来事」
- 「物的出来事」=「純粹に物的な語によって記述可能である出来事」267

(この区別については、詳細な分析が行なわれていますが、それは省略します。)

心的出来事と物的出来事の間に関する 四つの理論

	ある	ない
心的出来事と物的出来事は同一である 同一でない	法則論的一元論 法則論的二元論	非法則論的一元論 非法則論的二元論

- 法則論的一元論(nomological monism): 唯物論
- 法則論的二元論(nomological dualism): 心身平行説、
心身相互作用説、随伴現象説
- 非法則論的二元論(anomalous dualism): デカルト主義
- 非法則論的一元論(anomalous monism): ファイゲル、
シューメイカー、テイラー、ナーゲル、ストローソン、
デイヴィドソン

- デイヴィドソンは、**非法則的一元論**を主張する。
- 「すべての出来事は物的であると主張する点において、非法則論的一元論は、唯物論に似ているが、それは、心的現象に対してわれわれは純粹に物理的な説明を与えることが出来る、という唯物論にとって本質的に重要であると考えられている主張を拒否する。」
(訳273)

＜非法則的一元論と3つの原理との関係＞

- 「因果性と同一性は、個別的出来事がどのように記述されるにせよ、それらの個別的出来事の間関係である。」
- 「しかし、法則は言語的なものである。それゆえ、個別的出来事が何らかの別の仕方ですでに記述されている場合に限って、それらの出来事は法則の例化したものになりうるものであり、したがってまた、法則の光のもとで説明されたり予測されたりしうるのである。」²⁷⁵

- 「**因果的相互作用の原理**は、言語表現の外延に属するものとしての出来事に関わっており、従って、心的一対一物的という二分法はここには関与してこない。」(訳275)

- 「因果性の法則論的性格の原理」については、それを注意深く読む必要がある。その原理は次のことを主張する。すなわち、二つの出来事は、それらが原因および結果として相互の関連付けられているときには、法則言明の例化であるような記述をもつ、と。その原因は因果関係を述べる真なる単称言明がすべて法則を例化したものであるということを述べてはいない。」(訳275)

- 「**心的なものの非法則性の原理**は、心的として記述される限りでの出来事に関わるものである。なぜなら、出来事は記述されて始めて心的となりうるからである」(訳275)

＜第二部の内容＞

テーゼ「厳格な心理・物理学的法則は存在し得ない」 の証明

- 「我々は心的枠組みと物的枠組みの二つを使用しているが、その両者の間には共通性がないが故に、厳格な心理・物理学的法則は存在しない。」
- 「物的変化は、物的に記述された他の変化や状態とその変化とを結合する法則によって説明しうるということが物的実在の特徴である。」
- 「他方、心的現象をある個体に帰属させる場合にはその個体の理由や信念や意図といった背景をも同時に考慮しなければならない、ということが心的なものの特徴である。」
- 「これら二つの領域の間に厳格な結びつきはありえない。」²⁸⁷

- 「人間を理性的動物と考える限り、心的なものと物的なものとの間に厳密な法則論的連関は存在しない」²⁸⁸

■ しかし、次の三つの主張は矛盾するように思われる。

* テーゼ「厳格な心理・物理法則は存在し得ない」

* 「因果的相互作用の原理」

* 「因果性の法則論的性格の原理」

なぜなら最後の二つが正しならば、心理・法則が存在するはずだからである。

＜第三部の内容＞

■ テーゼ

「厳格な心理・物理学的法則は存在し得ない
という事実と他の二つの原理[第一、第二原
理]から、少なくともいくつかの心的出来事と
物的出来事の同一性が帰結する」(訳265)

の証明

- 「心的なものと物的なものとの間に範疇上の相違が存在するという主張から、心的なものと物的なものとの間を結ぶ厳格な法則は存在し得ないという主張をみちびくことも、それほどありきたりのことではないにしても、確かに、まったく新しいとはいえない。」
- 「もしなんらかの驚くべきことがあるとすれば、それは、**心的なものに関しては法則性が見出されないにもかかわらず、まさにそのことが心的なものと物的なものとの間の同一性を確立するのに役立つ**という点であろう。」(訳288)

- 「心的なものは閉じた体系を構成しないからである。すなわち、それ自身は心的なものの体系的部分を構成しない非常におおくのことが、心的なものに対して影響を及ぼしうるのである。しかしながら、この考察を、心理・物理学的言明は厳格な法則ではないし、また厳格な法則に仕立て上げることが可能なものでもない、という結論と結合するとき、心的なもの非法則性の原理・・・という帰結が得られるのである。」²⁸⁹

これは次のように整理できる

- ①心的出来事の領域は因果的に閉じていない。
- ②心理物理学的言明は厳格な法則ではない

①と②より③が帰結する

③心的出来事は非法則的である。

- 「心的出来事と物的出来事との同一性の証明は、容易にえられる。」
- 「ある心的出来事mがある物的出来事pを引き起こしたと仮定しよう。このとき、mとpの生起は、ある記述の下では厳格な法則の個別的事例になっているはずである。」
- 「しかし、もしmが物理学的法則の下に包摂されるとするならば、それはある物理的記述をもたねばならない。しかし、このことは、それが物的出来事であるということの意味する。ある物的出来事がある心的出来事を惹き起こす場合にも、同様の議論が可能である。かくして、物的出来事に因果的に関連付けられた心的出来事はすべて物的出来事であるということになる。」²⁹⁰

- ④心的出来事と物的出来事の間には因果関係がある
- ⑤因果関係は、必然的法則を前提する
- ④と⑤より6が帰結する
- ⑥心的出来事と物的出来事の間には、必然的法則が存在する。
- ⑦心的出来事と物的出来事の間、必然的法則は物的なものである。
- ⑧物的出来事と因果関係にある心的出来事は、物的出来事である。
- ⑨物的出来事と心的出来事は同一である。

- 「ある一つの出来事がもう一つの出来事を惹き起こす場合、それらの出来事が適切に記述される限り、その二つの出来事を個別的事例とする厳格な法則が存在する。」
- 「しかしながら、個別出来事間の因果関係については知っていても、法則ないしその法則に関連するしかるべき記述を知らないということはあることで(あり、むしろ一般的でさえ)ある。」

- 「これらの事実を同一性に関する知識に適用するならば、ある心的出来事はある物的出来事と同一であると知りながらも、しかし、それがどの出来事であるかを(その出来事をしかるべき法則の下に包摂する一意的な物的記述を、その出来事に与えることが出来るという意味においては)知らないという場合があることがわかる。」
- 「したがって世界の物的歴史を全て知り尽くし、しかも、あらゆる心的出来事が物的出来事と同一であるとしても、そのことから、唯一の心的出来事(もちろん、そのように記述されたものとしての心的出来事)さえも、それを予測あるいは説明するという事は帰結しないのである。」²⁹⁰

⑨心的出来事と物的出来事は同一である。

③心的出来事は非法則的である。

⑩物的出来事は法則的である

- この3つが同時に成立しているとすれば、次が成り立つ。

⑪心的出来事と物的出来事は、タイプ同一でなく、トークン同一である。

- なぜなら、法則は、物的出来事のタイプ間の関係であるので、それに対応する心的出来事のタイプ間にも法則が成立することになってしまうからである。